

「皇太子御成婚」はどう受け取られたか

——若者たちの評価の諸相——

市 川 孝 一

How did People Think about the Wedding of Prince Naruhito and Masako Owada

Koichi Ichikawa

はじめに

1993年6月9日、皇太子（浩宮）と小和田雅子さんの「結婚の儀」が行われた。現代風俗研究会・東京の会の短期プロジェクト「皇太子御成婚“あやかり隊”」⁽¹⁾では、「御成婚」をめぐるさまざまな風俗現象の収集を試みた。「御成婚」についての風俗研究を通じて、象徴天皇制をめぐる日本人の意識や行動を把握しようというのが最終的な大きな目標である。本稿は、その調査活動の一環として行われたアンケート調査の結果の一部を報告するものである。

調査方法

1993年6月5日、下記のような調査票を現代風俗研究会（以下「現風研」と省略）の会員全員（490名）に郵送した。その結果、返送料は回答者負担であったにもかかわらず、7月末日までに、152通の回答を得られた（会員の家族・知人19名を含む）。またこれに加えて、教育機関に勤務している会員に、生徒・学生への調査を依頼したところ、関東と関西を中心に大学14、短期大学8、専門学校4、高等学校3、中学校1、合わせて30校から、2659通の回答が集まった（調査はいずれ

も6月中に行われている）。合計すると、2811通という予想をはるかに上回る数に達した。

質問紙の内容は以下の三問からなる、さわめて単純で簡単なものである。

1. 1993年6月9日はどのようにすごしましたか？
時間に沿ってくわしく書いて下さい。[一時間刻みのタイムテーブル（省略）を示し、いた場所、行動、接触したマスメディア（テレビやラジオ番組・新聞等）を書いてもらう。]
2. 「皇太子御成婚」についてあなたのまわりでどのようなことが話題になりましたか？ 話題になったことがら、あなたの知っている情報やうわさを教えて下さい。
3. 「皇太子御成婚」について、あなたはどのように思いますか？ 感想をお聞かせ下さい。

2、3は完全な自由記述、1も形式を指定しただけで、基本的には自由記述である。回答者の属性としては、性別、年齢、住居地、職業・勤務先・学校名をきいている。

結 果

本稿では、前稿（市川孝一、1993）と同様に、神戸のA大学（23、女性のみ）、埼玉のB大学（124、男53・女71）、東京のC専門

学校（236、女性のみ）の計383票に基づいて、今回は質問3の回答結果に焦点を絞ってその内容を紹介する。回答の性格上、具体的な回答例を原文そのままの形で、できるだけ多く紹介していくことにしたい。

〈高い回答率〉

回答の具体的な内容に入る前に、回答の全体的な傾向に簡単にふれておこう。問3に対して、回答の記入のなかったものは383票のうち、わずか11票である。問2以上に高い回答率で、回答項目数は総数で、575にも達する。各回答者、平均1.5項目のコメントを記入していることになる。全体として、非常に高い回答率で、今回の調査は「真面目な」回答者に恵まれたことになる。

〈話題と評価〉

問3は、その質問からも明らかなように、「皇太子御成婚」について、回答者がどんな感想を抱いたのか、それをどう評価したのかを聞こうとしたものである。それに対し前稿で考察の対象にした問2の場合は、人々の間でどんなことが話題となり語られたのか、どんな言説が人々の間を飛びかったのかを知ろうとしたものであった。

表一 話題・うわさのカテゴリー（数は実数）

ファッション	122	パレード	52
結婚の評価	55	天候	37
外見の美しさ	39	あやかり	27
顔・笑顔	16	金箔ダンス	19
雅子さんの変貌	18	休日	14
全体の印象・パ	12	ショコラ	10
フォーマンス	10	金色の公衆電話	4
学歴・経歴	10		
知性	5	ヴァージニティ	9
性格	4	皇室と性	9
身長	22	過去の男関係	5
プロボーズの言葉	15	アトピー	5
皇室の生活	12	エステ	4
子ども	9		
紀子さんとの比較	9		
美智子皇后との比較	7		
過剰報道	15		
過剰警備	10		
税金	10		

調査をする側の意図としては、問2で「話題とうわさ」を、問3では「結婚に対する評価」を聞こうとしたわけである。ところが、問2の集計結果（表一）からも明らかなように、問2の回答の中にすでに内容的には問3の回答に当たるもの、つまり「結婚の評価」に関するものが含まれていたということである。しかも量的にもかなりウエイトを占めていたのである。この点に関しては後でまた改めてふれるが、問3の回答の内容に入る前に一言断っておきたい。

〈肯定的評価〉

問3の回答の中では、結婚に対して肯定的な評価を下すもの、好意的な感想を述べるものが、177件（実数—以下同様）と圧倒的に多かった。簡単にいってしまえば、「おめでたい」「良かった」「喜ばしいことだ」というように、「祝意」や「賛意」を示すものである。

個々の回答は、バラエティに富み表現もさまざまである。前稿でも述べたように、この種の調査では、量的なものはあくまでもひとつの目安であって、重要なのは回答の内容そのものである。それぞれの表現に込められた微妙なニュアンスといったものに意味があり、資料的な価値もそこにあるものと思われる。以下、具体的な回答例をいくつか見ていくことにしたい。

ひとつまとまって出てくるものは、「良かったと思う」（女・18歳）、「よかった、よかった」（女・19歳）、「よかったネ。」（女・19歳）、「いいと思います」（男・20歳）のように、とにかく「よかった」と一言端的にコメントするもので、同種の表現は10件を越える。「まっ、いいんじゃないスカ」（女・19歳）、「おめでとうございます。お幸せに。とりあえずよかったのではないのでしょうか。」（女・18歳）のような、とりあえずよかったという回答もある。

次は、「おめでたいことだと思う」（女・20

歳)、「めでたい、めでたい」(男・19歳)など単純に祝意を表明するもの。これに「祝福すべきことだと思います」(女・20歳)、「喜ばしいことだと思う」(女・19歳)が加わり、さらに「心より祝福しております」(女・18歳)、「おめでとう、ほんとうによかったね。」という新婦の友人の祝電のような回答もあわせると、このグループも10件を越える。「早く結婚していただきたかったので、うれしい。」(女・19歳)、「やっと結婚できて、ほっとした。」(女・19歳)、「天皇家もこれで一安心したことだろう。」(男・20歳)のように、まるで「親戚のおじさん」の言葉のようなものもある。

「幸せそうで良かった」という回答もひとつのまとまりを作っている。「お二人ともすごく幸せそうで、すごく良かったと思います。」(女・18歳)、「幸せそうでいいと思う。」(女・19歳)、「仲良くてよかった。」(女・18歳)などがそれで、7件ある。

回答が単純なものを先に紹介したが、〈肯定的評価〉の中で圧倒的に多いのは、「皇太子が結婚できてよかった」というもので、これがこの分類項目の回答の大半を占める。さらにこの中の回答の多くには、「やっと」という表現が含まれるのである。

「やっと皇太子様の結婚相手が見つかった良かったと思う。」(女・18歳)、「やっと結婚できてよかったね!」(男・20歳)、「なかなか結婚できず、目標の30歳も過ぎ、どうなることかと思っていましたが、やっときれいな奥さんをもらえてよかったと思います。」(女・18歳)、「日本のトップに立つ人が30過ぎても結婚できないなんて格好悪いと思っていた。でもやっと結婚できて本当に良かった。」(女・18歳)などが代表的な答。

この中には、「弟さんの方が先に結婚なさってしまったので、どうなることかと思っていたが、無事結婚できてよかった。」(女・19歳)、「秋篠宮の方が先に結婚していたので、

皇太子妃も決まってよかったと思った。」(女・18歳)などのように、弟(秋篠宮)との関係に言及するものが6件あった。「長幼の序」とでもいうべき発想・意識がこういう若い世代にも見られるのは意外であった。

その他には、「めったに見られないのを見たから、ちょっと嬉しい」(女・18歳)、「30年に一度くらいの割合でしか見れない『皇太子御成婚』を見てよかったと思う。」(女・18歳)、「…私がこの歴史的瞬間に今いることを嬉しく思う」(女・18歳)など、めったにない大イベントに居合わせたことを喜ぶ答が、9件もある。

また、「華やかな御成婚だった。」(女・18歳)、「とても良い御成婚だったと思います」(女・18歳)などと、「結婚の儀」というイベント自体を肯定的に評価するものが、7件。

さらに「時代をさかのぼるとともに、古き時代絵巻を見ることができた。礼儀作法を重んじる日本人の心があらわれていた。」(男・20歳)、「平安朝の風習(十二単衣その他諸々)を今に残している、という点について言えば貴重だと思う。」(女・20歳)など文化や伝統に言及したものが5件あった。

最後にひとつの代表的パターンとして、長めのコメントを2例引用しておこう。「皇太子様は本当に自分のお好きになった方でなくては、御結婚なされない方だということがわかったので、立場は私たちとは違いますが、心は同じだということが伝わってきました。30歳を過ぎてしまいましたが、納得のいく相手が見つかったと思います。また雅子様も皇太子様のお気持ちに答えられて、良かったです。これからのお二人の生活・行動に注意して見守ろうと考えています。ぜひお幸せになって頂きたいです。」(女・18歳)、「最初、雅子さんがお妃候補としてテレビに現れた時はひどく迷惑そうな顔で足早に通り過ぎていった場面が特に印象にあります。それが皇室会議で正式にお妃と決まった時から

は、今まで隠れていた『気品』というものがひしと感じられました。そんな雅子様をお好きになられた皇太子様にとって、また陰で支えて下さった方にも6月9日という一日は、とても長い一日だったと思います。これから雅子様は皇族として、また皇太子妃としてとてもつらいことがあるかもしれません。しかし、皇太子様となら必ず良い家庭が築けると思います。パレードの時の雅子様の笑顔、とてもお幸せそうでした。いつまでもお幸せに!!」(女・18歳)

これを読んで、どこかで似たようなせりふを聞いたことがあると思った人は少なくないだろう。何のことはない、これは結婚式のスピーチなのである。しかも、新婦の友人のスピーチに良くある典型的パターンがこの種のものなのである。この点が興味深い。

〈否定的評価〉

否定的なコメントは、57件ある。前に述べたように、前稿で紹介した問2の回答の中には、内容的には、むしろ問3に対する回答に含めるのがふさわしい「結婚の評価」に関する答が多数含まれていた。

さらにその中でも、否定的なものは多く、それらは、“この結婚はこれで本当によかったのだろうか”という「結婚への疑問」を呈するものや、本人(雅子さん)の意思に反して無理やり進められた〈強制された結婚〉ではなかったかという「結婚への疑念」を表明するものに集約された。

ここで否定的評価とカテゴリー化された回答は、当然のことながら内容的にはそれらのものと重なってくる。結婚への疑問や疑念は、「本当に好きなのか」「幸せなのか」「無理やりではないか」、にまとめることができる。

代表的な具体例には次のようなものがある。——「皇太子は雅子様をずっと好きだったので、結婚してよかったが、雅子様は本当に皇太子を好きだったのかギモンに思う。」(女・18歳)、「学校も休みになってありがたいけど、

雅子さんは本当に皇太子様のこと、好きなのだろうか?」(女・18歳)

「…自分が素直に思ったことは、雅子様は本当に幸せなのか? 他に好きな人がいたのではないか?」(女・18歳)、「特に何も思いませんが、雅子さんは本当に幸せなのかなと少し疑問を感じます。」(女・21歳)

「雅子さんが本当に望んでお嫁にいったのか疑問。周囲の人間にたのみこまれてお嫁に行ったのではないのでしょうか」(女・20歳)、「やっと結婚できたかな…っていう、でもムリヤリのような気もする。皇太子に“結婚してくれ”といわれたら、絶対ことわれなさそう。」(女・18歳)

否定的評価の中で、大きなまとまりを作っているのが、結婚への異義申し立て、何らかのクレームをつけるものである。これらの回答のキーワードは、「もったいない」「かわいそう」「惜しい」「残念」である。

具体的にはつぎのようなものだ——「雅子さんはとてもきれいで、皇太子様にはもったいないと思った。」(女・18歳)、「別になんとも思わない。でも、雅子様が頭が良くて、お金持ちで、美人で、キャリアウーマンで、カッコイイのに少し皇太子様にはもったいないと思った。」(女・18歳)

「私は、本当に雅子さんがかわいそうだと思います。」(女・18歳)、「雅子さんが皇族になると、雅子さんは自分の家族から離れてしまうんだと思うと、少しかわいそうに思った。」(女・18歳)、「雅子さんが皇室に入るので、これから彼女は苦勞するんだろかなあと思ひ気の毒だった。」(女・19歳)

「雅子様はあんなに美人で頭が良いのだから、もっとカッコいい人と結婚できたのに惜しいと思う」(女・18歳)、「…雅子さんが外務省をやめてしまわれたことが惜しいように思います。」(女・19歳)、「有望な人材を失うことになるのが残念。」(女・18歳)

これらすべてをまとめたような回答として、

次のような例がある。——「皇太子と雅子様
が結婚することが決まった時、一言『つり合
わない』と思った。皇太子には悪いけれど、
背も低いし、雅子様の方が背が高く、とって
も美人なのに、はっきりいって皇太子には
もったいないと思う。皇室に嫁いだ雅子様は
かわいそうで、一人で生きていける人なのに
そして美人だし、いくらでも男性が来ると
思うのに本当にもったいない。この先雅子さ
んの人生が明るい一生であってほしい。」(女・
18歳)

否定的評価の中には、数は少ないが「天皇
制」にまで思いを馳せる(?)次のようなコメ
ントもある。——「最初は漠然と結婚おめで
とうという気持ちだったが、夜パレードの様
子をTVで見て怖いものを感じた。19万人も
の人が、日の丸を片手にあれだけさわいで、
その風景を見て戦争時の軍国主義、天皇主権
という言葉が頭に浮かんた。つい最近も日の
丸は国旗かという論争もあったばかりだし。
それと、雅子さんのお母様の“お国のために
……”という言葉も頭に残っている。象徴と
しての天皇とはいったい何なのだろう。天皇
制とは……と考えさせられた。」(女・21歳)

以上が、狭い意味の「結婚の評価」に関す
る「肯定的意見」及び「否定的意見」である。
これはいわば結婚そのものに関するコメント
なのだが、問3に対する回答の中にはそれ以
外にもさまざまなコメントが見られる。それ
らは今回の結婚にまつわるさまざまな事象に
関する言及で、こちらは広い意味の「結婚に

関する意見や感想」ということになる。

それらの中には、内容的に見ると前稿で使
用したテーマ別分類と重なるものも多く含ま
れている。その意味では、同じ分類項目を適
用した場合に、問3の回答ではそれらが各々
どれだけの件数になるかをまず見ておくこと
が便利かもしれない。(表—2 参照)

〈過剰報道批判〉

表—2 からわかるように、ここで圧倒的に
多かったのは、過剰報道に対する批判的コメ
ントである。表現に多少の違いはあるが、要
するに「マスコミの騒ぎ過ぎ」「やり過ぎ」
を批判・非難する意見である。

「あまりに過度過ぎる。どのテレビ局も同
じ絵しか映っていない。」(男・20歳)、「マス
コミが騒ぎ過ぎ。一日中TVで生中継し、特
別番組を作る必要があるのか。」(女・20歳)、
「一日中教育テレビをのぞいてほとんどのテ
レビ局で『皇太子御成婚』の様子を報道して
いましたが、夜になるにつれて飽きるので、
NHK 総合だけにしてほしい。」(女・18歳)、
「ほとんどのTVが御成婚の番組でつまらな
かった。ちょっとやり過ぎだと思った。」
(女・18歳)などが代表的なもので、これが
ひとつのまとまりを作っている。

〈過剰報道批判〉には、単に報道の量的過
剰を批判するだけではなく、「報道姿勢」「報
道のあり方」を批判するコメントも含まれて
いる。このグループには次のような回答があ
る。

「報道に関して言うなら、日本の報道は全
くきれいごとばかりだったのがふに落ちな
い。」(女・21歳)、マスコミの報道にかなり
疑問が残る。なぜ良いことばかり並べて報道
しているのだろうか。同じ人間なのだから、
あんなにダラダラと報道するのはバカバカし
い。どうせやるなら裏の行動を見せろ。その
方が人間味があってよいと思う。」(男・19
歳)、「象徴としての皇族なのに、その儀式が
閉鎖的であり、異常なまでの手厚い対応をし

表—2

過剰報道	57	子ども	8
休日	28	雅子さんの変貌	7
外見の美しさ	20	プロポーズの言葉	6
パレード	17	過剰警備	5
税金	13	天候	5
ファッション	13	美智子皇后との比較	4
顔・笑顔	12	身長	3
紀子さんとの比較	11	全体の印象	2
学歴・経歴	9	あやかり	1

た政府や報道には何かしら不快感を覚えた。」(男・20歳)。

「報道があまりにも奥様向けというか、でき過ぎた話ばかり持ち出してつまらなかった。雅子様を聖人化し過ぎている。マスコミがどうか流行を作り出そうとしている様子が痛々しかった。」(女・19歳)、「マスコミによって変にイメージづけられているのを感じて、興ざめしてしまう部分もあった。」(女・20歳)。

「御成婚は、とてもおめでたいことだと思うが、それに関しての報道熱(マスメディアの異常なまでの対応)には驚いたとともにバカらしいと思った。また司会者やゲストの意見・感想があまりに大げさ過ぎて、『この人達は本当に祝福しているのだろうか?』と疑わざるを得なかった。」(女・20歳)、「雅子さんや皇太子の友人、見た人、アナウンサーなどの齒の浮くような言葉(装飾過剰)に少々うんざり。」(女・20歳)、「情報操作の疑いを感じた。」(男・20歳)。

以上のようなマスコミ批判を紹介していったらきりがなが、〈過剰報道〉という分類項目には、マスコミと受け手が一体となった「大騒ぎ」(フィーバー!)に関するコメントも含めた。次に上げるようなものが、その代表的回答である。

「人の結婚にどう思うもないけど、日本中であれほど騒ぎ立てることはないと思う」(男・20歳)。「世の中の人たちが、何であんなフィーバーしてしまうのかとても不思議だった。」(女・19歳)、「なんか、報道のバカを見たような気がするし、それにつられているバカな人があんなにすることがわかって、かえって良かった。」(女・22歳)

「マスコミ報道があればどうすぐくなければ、『雅子さんフィーバー』というものは起こり得ないだろう。とにかく、マスコミの報道によって盛り上げられたものであり、何かマスコミに盛り上げられるようにしむけられてい

るような感じがした。もし普通の記事のようにしか取り扱われていなかったら、果たして盛り上がるかどうか疑問である。」(男・20歳)、「結婚されることはおめでたいことなので、国民としては喜ぶべきことだと思うけど、マスコミや国民全体が異常なほどの騒ぎょうなので、外国から白い目で見られていたことが気にかかる。皇太子の御成婚も大切なことだけど、日本には今やらなければならないもっと大切なことがあると思う。」(女・18歳)。

〈過剰警備〉〈税金〉

批判的見解・意見というくり方をするとそこには、「過剰警備」(5)、「税金」(13)という項目も入ってくることになる。問2の回答の中にも、このテーマは含まれていたが、問3の回答では特に「税金」の項目で厳しい批判のコメントが目立つ。

「国民の税金を何十億と使うぐらいならば、雲仙のかわいそうな人達に家を建ててあげてほしい。」(女・18歳)、「社会では、不景気なのに何億もかけてそれも税金を使って(結婚、いくらおめでたいからって)日本中でみんなの目に見えないで苦労している人のことも知らないのに、堂々としかも全部の放送局で放送しないでほしい。」(女・18歳)

「何十億というお金をかけるほど、あんなたくさんの警官が守るほど、あの2人は立派な人間なのではないでしょうか? なっとくいかないです。」(女・18歳)、「30過ぎの男が結婚したからといって、国中あげて、お祭り騒ぎすることはない(たとえ皇太子でも)。金の使い過ぎだ。税金返せ。」(女・20歳)

「たった1日で何十億ものお金が消えたのかと思うと、何のための税金なのかと考えさせられる。皇太子様の御成婚はおめでたいことだとは思いますが、日本の象徴というのは誰が決めたわけでもないし、ただ生まれながらにその家系であったというだけでこんなに大々的に御成婚の儀が行われ、納得のいかな

い面が多いと思う。何故そんなに喜ばなければならないのか、私にはわかりません。日本の制度のしくみがよくわからなくなります。」(女・19歳)

〈休日〉

表—2で次に数が多いのは、「休日」の28件である。これはいかにも学生らしい答と行ったもので、その大半は、「休みになって良かった」「休みになってうれしかった」「休みになってラッキーだった」などの他愛のない内容のものである。

ただこの中にも、少数ながら批判的な意見も見られる。それは「休日」に、何らかの疑問を呈する次のような意見である。

「私としては学校が休みになったのはラッキーと思いましたが、休日にするのはやり過ぎではないかと思いました。」(女・19歳)、「6月9日って、だから大学が全休講だったのですね。大学を休ませてしまう結婚式ってどんなものだったのだろう？」(男・21歳)、「国の次期象徴が結婚なさり、またその相手が雅子さんと立派な方であることは、とても喜ばしいことだし、これからも頼もしく感じている。しかし、その日がなぜ祝日にならなくてはならないのかわからない。疑問だ。」(女・19歳)

〈無関心〉

表—2のその他の項目は、問2の回答＝「話題」として前稿で扱ったものと内容的に重くなってくる。したがって、具体的な回答

表—3 それ以外の項目

無	関	心	33
皇		室	16
カ	ッ	ル	13
家		族	8
激		励	8
皇	太	子	6
自		分	5
天	皇	制	4
皇	太	后	1
そ	の	他	26
無	回	答	11

例を紹介することはあまり意味がないので、ここでは、表—3の「それ以外の項目」に注目してみたい。

ここでトップとなっているのが、「無関心」(33)という項目である。この分類に含まれるものは、もう少し細かく言えば、「自分には関心がない」「自分には関係がない」「自分には興味がない」というコメントである。

具体的な回答例としては次のようなものがある。——「あまり皇室のことには関心がありません。」(男・20歳)、「いつ結婚するのか、どんな人と結婚するのかと思っていたわりに、実際決まってみると、自分とは直接かわりのないことなので、あまり関心を持たなかった。」(女・18歳)、「老年のかたがたがとても感激しておられるのを見ると若者は冷めているなあと思いましたが、あんまり関心ありませんでした。」(女・20歳)

「私は別に興味がないので、結婚したんだなあぐらいしか思いませんでした。」(女・18歳)、「皇太子がどんな人と結婚しようと、日本は変わらないと思うので、興味なし。でも雅子様には幸福になってもらいたい。これからは苦労しかない人生だと思うから。」(女・18歳)

「自分とはあまり関係のないこと。」(女・20歳)、「自分が結婚するわけでもないし、友達が結婚するわけでもないので何とも思わなかった。」(女・19歳)、「特に喜びも感動もない」(男・20歳)、「別に僕は、天皇崇拝者じゃないので、皇太子が結婚しても、赤の他人のカップルが結婚したのとなんら変わりはありません。」(男・20歳)

回答の総数から言えば、それほど大きい数とは言えないが、これが明らかにひとつのまとまりを持った回答群として存在していることが興味深い。ここから、若者の「気分」の一端は伺えるような気がするのである。

「それ以外の項目」では、数こそそれほど多くはないが「激励」という分類にした、8

件の回答がおもしろい。これは、「雅子さん」「皇太子」「雅子さんと皇太子二人」に向かって、「頑張ってほしい」とエールをおくるメッセージである。

例えばそれは次のようなものである。——「雅子様はこれから大変だと思うけれど頑張ってほしいと思う。」(女・18歳)、「雅様が本当に幸せになればいいのですが、皇太子妃というのは苦労が多いと思うので頑張ってほしいです。それにもう後戻りはできないので後悔のないように暮らしてほしいです。」(女・19歳)

「これからは皇太子様、一人ではなく二人で頑張ってほしい。」(女・18歳)、「とても幸せそうでうらやましいです。二人ともこれからは大変な面が数々あると思いますが、頑張ってほしいと思います。」(女・18歳)

これらの回答は、ニュアンスの質から言えば、前に出てきた「結婚式のスピーチタイプ」のコメントと重なってくる。何が興味深くおもしろいかといえば、これらの回答からは、回答者と二人との「距離感」が伺えるからである。

考 察

以上、問3に対する回答の概要を見てきたわけだが、これから何がいえるのだろうか。狭い意味の「結婚の評価」では、「肯定的評価」が「否定的評価」を大きく上回っている。おおよそ、3:1の割合である。全体的な傾向を見るかぎり、回答者の多くが、今回の結婚に対し好意的見解を表明し、単純に祝意を示していることには間違いない。

しかし批判的見解・批判的コメントということになると、「過剰報道」「税金」「過剰警備」などの項目を中心に、他の項目もネガティブなグループに入ってくる。そうなると「否定的」「肯定的」の差はもっと縮まってくるだろう。

特に、批判的コメントが「過剰報道批判」

に集中した点には注目したい。前稿の結論のひとつは、メディア天皇制の下での「成熟した受け手」の存在の指摘だったが、それはここでも再確認できたことになる。

メディアを動員した特定の「物語」の押し付けには反発し、そうした「神話」や「美談」の裏にあるうそ(=演出)を簡単に見破ってしまうのが、「成熟した受け手」であるが、問3の回答に見られた「過剰報道批判」には、辛辣で的確なマスコミ批判・メディア批判が含まれていた。

そういった意味では、若者たちは、マスコミの仕掛けに容易に乗ることもなく、総じて冷静な対応をしたという現実が浮かび上がってくる。「マスコミが笛吹けど、受け手は踊らず」という状況であった。

もっとも、若者という特定の世代に限ったことではなく、今回の「御成婚」が全体的に「盛り上がり」に欠けたということは、誰もが認める事実である。特に、34年前の美智子妃(=現皇后)の「御成婚」に比べたらそれははっきりしている。

二つの「御成婚」の興味深い比較の試みがある(表-4参照)。「沿道の人出」に集約されるように、美智子妃の時には、「国民挙げての」といった感じの国民的レベルでの奉祝ムードがあった。それはまさに「ミッチーブーム」という呼び名にふさわしい一大ブームであり、文字通り「フィーバー」であったわけである。

それから見れば、今回はいたって静かなものである。もちろん、時代や社会状況が違うと言えば確かにその通りである。当時(1954年)の日本社会は、高度成長期に入る一歩手前の時期で、日本人全体の意識からしても、まだひとつの「国家的」イベント、一大パレードに、こぞって熱中できるだけのナীবさを残していた。

「御成婚」を契機にテレビ(白黒)が爆発的に売れたというのも、戦後の日本人の生活

表—4 二つの「御成婚」と時代背景

パ レ ー ド	沿道の人出	昭和34年 53万人	今回 19万人
	警備動員数	12,800人	30,000人
	パレードの距離	8.8キロ	4.25キロ
暮 ら し	テレビ普及率	昭和34年 23.6% (白黒)	平成4年 99.0% (カラー)
	乗用車保有台数	33万	3,916万
	一世帯の平均人数	4.14人 (昭和35年)	2.99人 (平成2年)
	女性一人で生涯で出 産する子供の数	2.04人	1.50人
	大学への進学率 { 男 (短大含む) { 女	15.0% 5.1%	37.0% 40.8%
	大学の初任給 { 男 { 女	12,190円 11,080円	186,900円 180,100円
	タクシーの初乗り料 金(2キロ)	70円	600円 (6月以降)
	電話加入回線数	322万	5,725万
	国際定期航空便旅客 数	8万人	1,104万人 (平成3年)
	東京—(新)大阪所要 時間(鉄道)	6時間40分 (10月以降)	2時間30分

出所)『読売新聞』1993.6.10

史を語る場合の欠かせないエピソードになっている。美智子妃の時の「御成婚ブーム」は、「消費革命」の波にも乗ったわけである。ところが、今回はその種の「目玉商品」もない。いくつかの個々の商品が、「あやかり」で売れたという事実はあっても、一般的な経済効果は期待できなかった。(2)

さらに美智子妃の場合、「国民的奉祝熱」のボルテージを上げた大きな要因のひとつとして、「民間から初の皇室入り」という事実が持つインパクトが強力に働いていた。しかし、紀子さんのケースを経た今となっては、それ自体のアピール度はぐっと低下する。

このように、今回の御成婚を盛り上げられなくさせる客観的条件はいくつもあったわけである。いわば、「盛り上げられなくべくして、盛り上げられなかったのである」。

しかし、何にもまして「盛上らない」最大の理由は、当事者たち自身にあった。亀井(1993)の次の指摘がまさに正鵠を射ている。——「今回の結婚に大衆がさしたるロマンを

感じていないのが『盛り上がらない』最大の理由なのです。」(3)

相思相愛のカップルからは自然ににじみ出てくるエロスが感じられないのである。相思相愛といっても、当事者たちの一時的な錯覚かもしれないが、それでもないよりはあった方がいい。人はもともと他人の幸福など喜ばないものだが、当事者がいいと言っているものは仕方ないと容認するし、そこにロマンが感じられれば共感したりもする。

それはともかく、ロマンがない場合にはロマンを作らなければならない。マスコミは、「愛の物語」や「純愛神話」を仕立て上げることに躍起になる。——「…マスコミは、なんとか『愛』の物語にしたがる。愛が無理なら『思いやり』とか『お人柄』。あるいは一人の女性を求め続ける男の情熱といった話にして美談にしようとするのです。」(4)

しかし、「成熟した受け手」がこのような作為に乗るわけがない。それがあまりにも見えすいたものであるだけに、やればやるほど受け手をしらけさせてしまうという悪循環が生まれる。

しかも今回の結婚ほど、ゴールインまでのプロセスとその舞台裏が、万人の目に透けて見えているケースはない。悪名高い芸能ジャーナリズムに追われる芸能人カップルでも、ここまで舞台裏(当事者の心の動きまで!)がはっきりと示されてしまうケースは少ないように思う。この点では、お気の毒と言うしかない。ただこれが、「成熟した受け手」のシラケをますます加速してしまうことは否定しようがない。

さて、最後に「それ以外の項目」に関する考察を短くつけ加えておこう。「無関心」という項目がかなりのまとまった数として出てきたことは前に指摘したとおりだが、これらの答の伝えているニュアンスは、文字通りただ単純に「自分にはかわりがない」というものである。

「拒絶」とか「否定」とかいった含意のない、いわば純粹の「無関心」なのである。たとえて言うなら「冷たい無関心」ではない「中立的な無関心」である。ここから伺われるのは、対象を冷たく無視する態度ではなく、いわば暖かく無視する態度である。

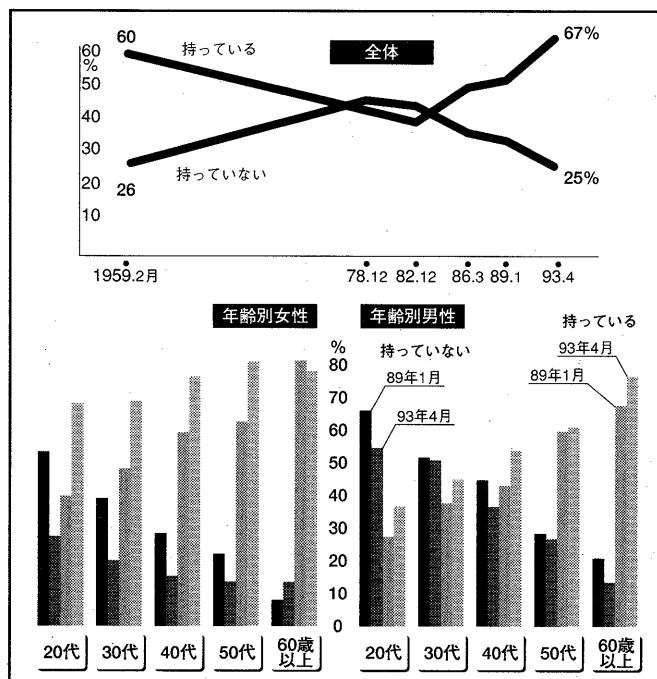
そしてこれは「激励」という回答とも、通底するものを持っていると言って良い。「激励」という回答に見られるのは、対象と自分との距離の近さである。対象との「距離感」の小ささ、「距離感」のなさである。対象を見る目線が、同じ高さ＝「水平」であるということである。肯定的評価の中にあった「新婦の友人のスピーチタイプ」のコメントも合わせて思い出してもらいたい。

つまり、これは簡単にいってしまえば、「親しみ」という感覚である。図－1 からも

明らかなように、世論調査の結果などが示すところによると、一般的に言っても、近年「皇室への親しみ」は高まってきている。特に最新のデータで見た時、女性の場合は、各世代まんべんなく（ということは、若い世代も）高いレベルを示している（この点で雅子さんの果たした役割は大きいだろう）。

日本人全体の「皇室への親しみ」「皇室への親近感」の高さは、まぎれもない事実である。ただ、一般の対人関係における個人の場合でも、「親しみ」と「尊敬」を受ける対象は一致することは少ない。このあたりに、日本人の皇室に対する意識の変容の行き先を示唆するものがあるように思える。⁽⁵⁾そして、このささやかな調査の結果からも、その方向は再確認できたと言えよう。

図－1 皇室への親しみ



図－1 皇室への親しみ

出所) 朝日新聞全国世論調査より作製
 (「その他・答えない」は省略)
 『AERA』1993.6.15

注

- (1) 皇太子御成婚「あやかり隊」のメンバーは、本隊員阿南透（江戸川大学）、小林多寿子（浦和短期大学）、常見耕平（多摩大学）、準隊員常見美紀子（昭和女子短期大学）、針谷順子（学陽書房）、及び筆者である。この企画は、そもそも本隊員の発案によるもので、各氏には特に感謝したい。また、すべてボランティアにもかかわらず多大な協力をいただいた、現代風俗研究会の会員の皆様には深く感謝いたします。
- (2) 「大ヒット商品は見当らず——国民的慶事『ご成婚』の景気刺激効果」『AERA』1993.6.15
- (3) 亀井（1993）、p.33
- (4) 同上、p.19
- (5) 読売新聞全国世論調査（全国の有権者3000人対象、1993年1月実施）の、「皇室はどうあるべきか」という問に対する回答結果も次のようになっている。——「今のままで良い」（52.1%）、「親しめる皇室」（31.8%）、「関心がない」（6.4%）、「天皇制は廃止」（5.3%）「威厳ある皇室」（3.2%）、「わからない・無回答」（1.2%）（『読売新聞』1993.6.9）

引用及び参考文献

- 朝日新聞社会部（市川速水）1993『皇室報道』、朝日新聞社
- 文藝春秋編 1993『外国報道に見る皇太子御成婚』、文藝春秋
- 市川孝一 1993「『皇太子御成婚』はどう語られたか——うわさと話題の構造」『人間科学研究』第15号（文教大学人間科学部）
- 亀井 淳 1993『皇太子妃報道の読み方』（岩波ブックレットNO.300）、岩波書店
- 国家と礼儀研究編 1993『雅子の真実』、社会評論社
- 丸山昇 1993『皇太子妃とマスメディア』、第三書館
- 読売新聞社会部 1993『6月のプリンス——雅子さんと皇室記者の2000日』、読売新聞社